

Gōkan: (NO. 013)  
Shiranui Monog  
Part 2. Book 1

~ 13  
3755  
6





縫

白

拾華寺鐘樓堂建立

新題西遊記

十一編上



門へ13  
355  
6

一ふぬ

も志のそり

才十一るん

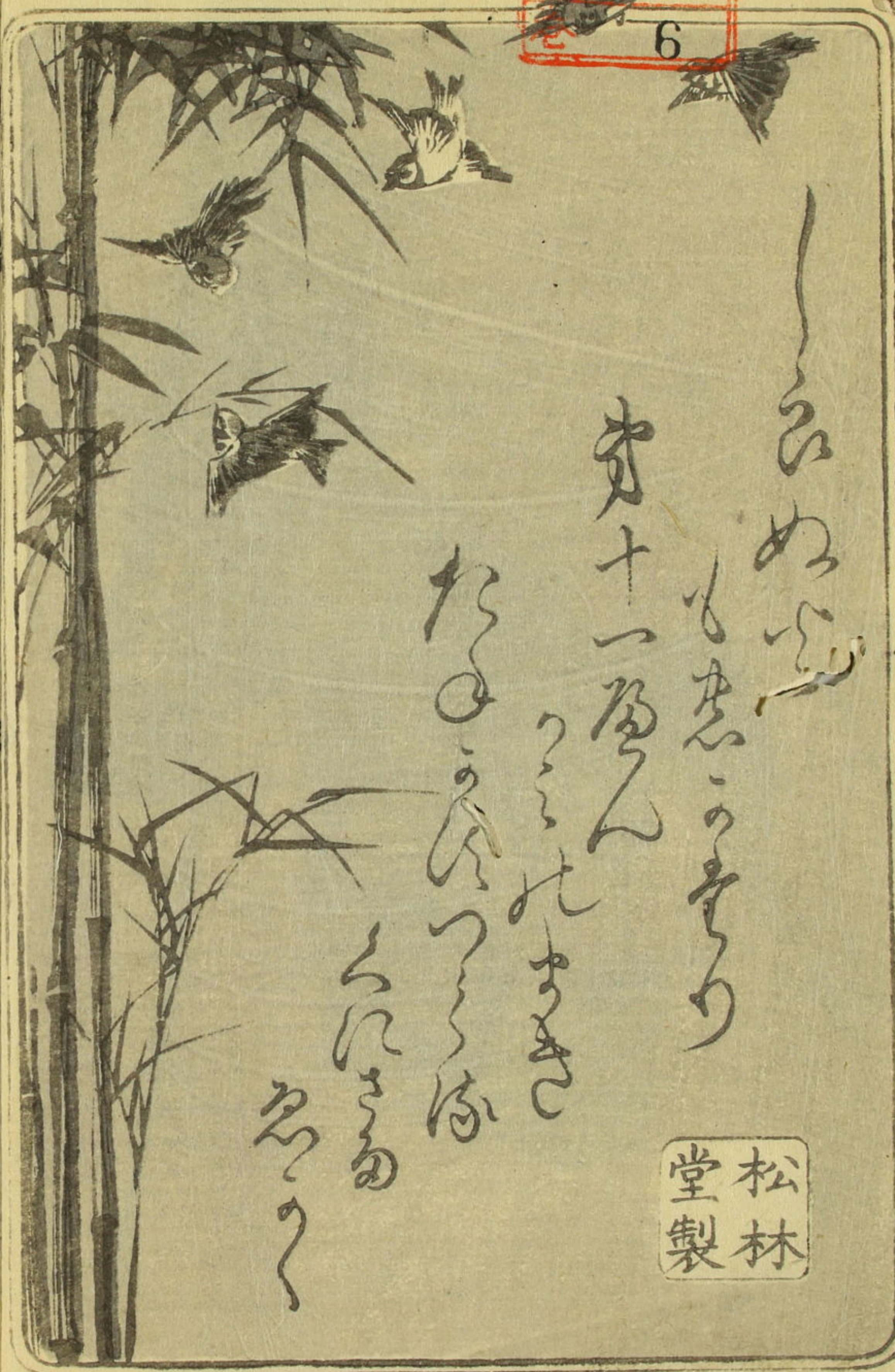
ついで

たのふつふ

くれさる

あつ

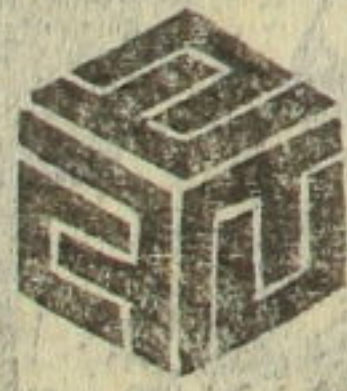
松林堂製



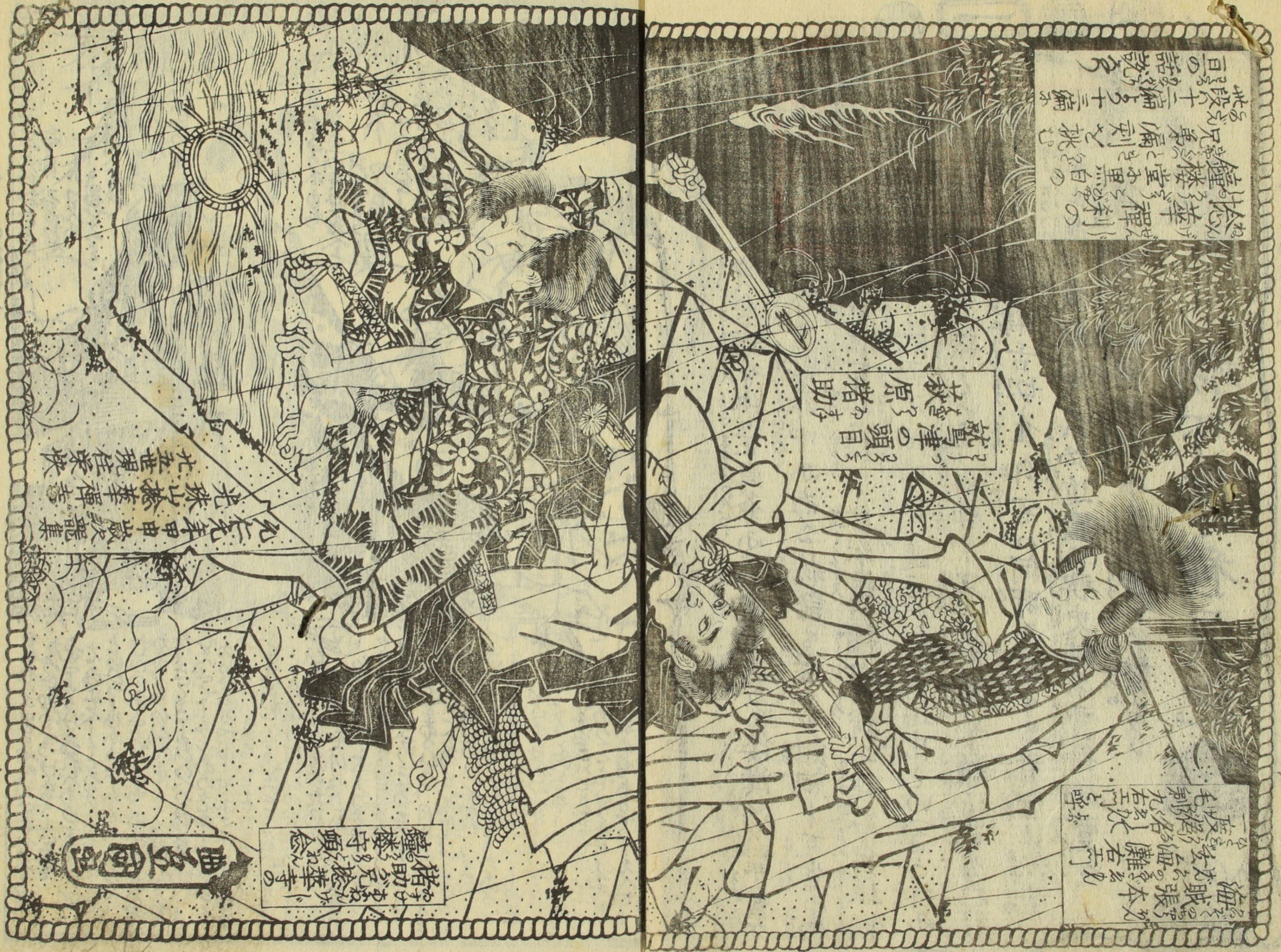
楊寶の玉環と與へ正直爺の葛籠を送る倭漢影并雀が  
報し話券中のある物語も農夫が餅飼一瓦雀の為  
免き一生を保一其本據の續醫説小誤吞金銀銅  
鉄入腰者韭菜熟而不斷咽之不過二次從穀道出といふと外  
人昔談として予告雀の奇事を種とせられバ  
序文の僅轉舌切雀御宅の何所在とも看官の佳童  
達此編の發販あつハ必近邊の稗史舖小賈得御覽と  
冀と言も則稗官中みまご黄口の贅ある

嘉永癸  
丑孟陽

柳下亭種員記



あつふ八十一



念心 華禪利の  
 鐘樓堂 白里の  
 兄弟 偏刺之挑  
 世段 十二編と十三編  
 巨の話 説き

就鳥津の頭目  
 秋原 楮助

海賊 張本  
 海難 右門  
 一度 名  
 毛 九右門と呼

楮助の兄 捨華寺の  
 鐘樓守 頓念

九仁元年甲申 巖波龍集  
 光珠山 捨華禪志  
 九五世 現任 榮峽

四五回

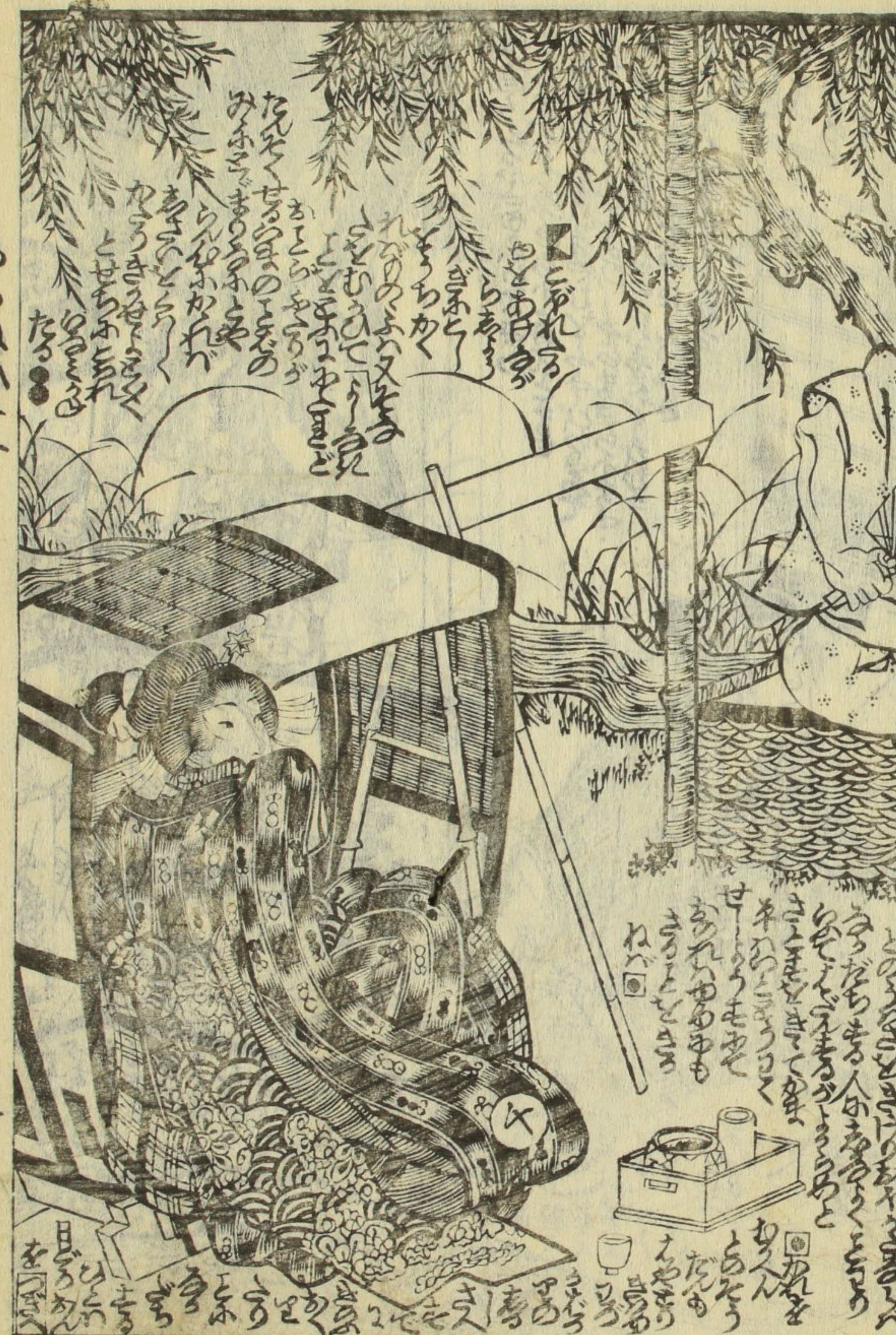
四五回

あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた



あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた

あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた



あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた

あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた  
あつたあつたのあつたあつた







一の葉のうらみ  
かきつせ入ふ  
てこられで  
まあせよくと  
のののま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま



あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま  
あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま

あつちのま  
かごごま  
せりま  
これま











嘉永五年壬子歲新著標目

輪廻  
應報

新編いとしをくま

中本  
三冊

柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画

錦木新  
於梅条之助

万年草新渡鉢植全

同同

画作

此二書は是迄御某のいさる人情本といふものより異り之忠孝を説く事多し其體裁はさうりて一画ハト本の中聞ふつたり年々此類數種は

禁玉壺生肌膏

一月  
廿六孔

○この膏は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり○皮膚の癩癬は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり○皮膚の癩癬は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり

透金瘡奇功膏

一枚  
廿四孔

○この膏は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり○皮膚の癩癬は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり○皮膚の癩癬は皮膚の癩癬を治すに最も効果あり

製藥所 新吉原 柳下亭  
取次所 真利東石坂下

地本繪類書林通油町 松林堂藤岡屋慶次郎



種員作國貞画

此人物の語解ハ  
次の巻せり

種員作國貞画

種員作國貞画

種員作  
國貞画

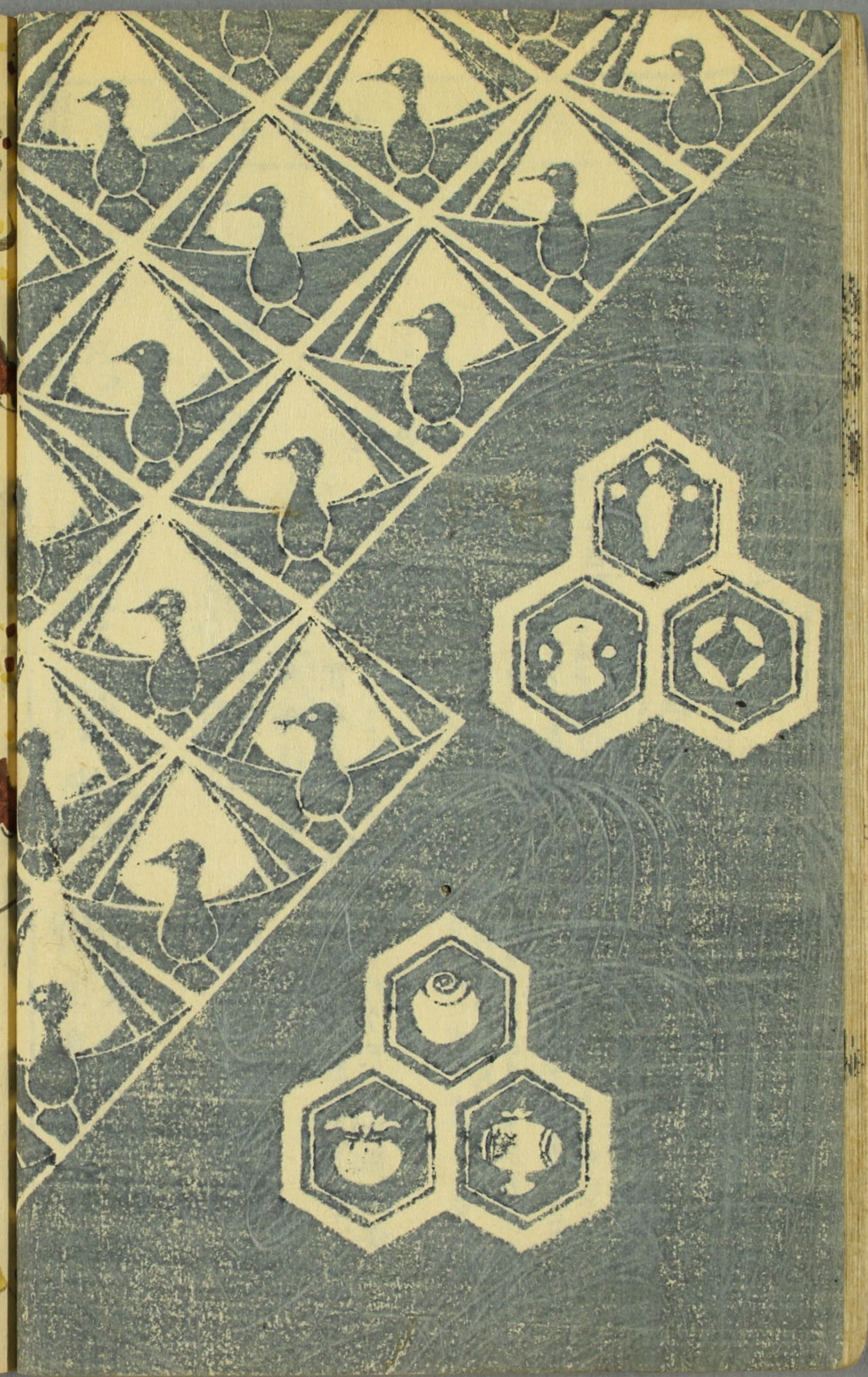
乃夜 詰

再板

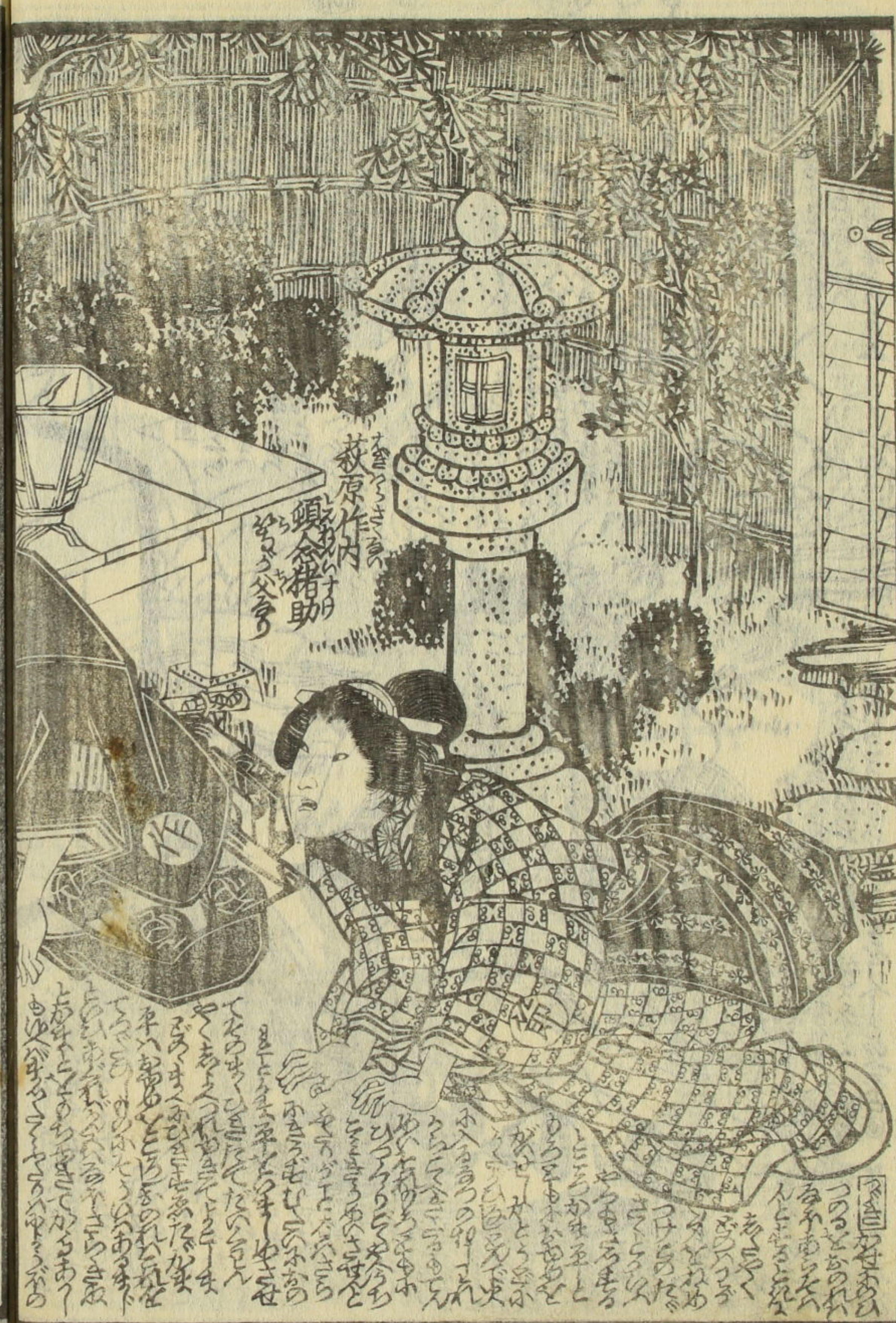
柳下

文庫

十一編下

















Vertical Japanese text columns located to the right of the top illustration, providing a narrative or dialogue for the scene.



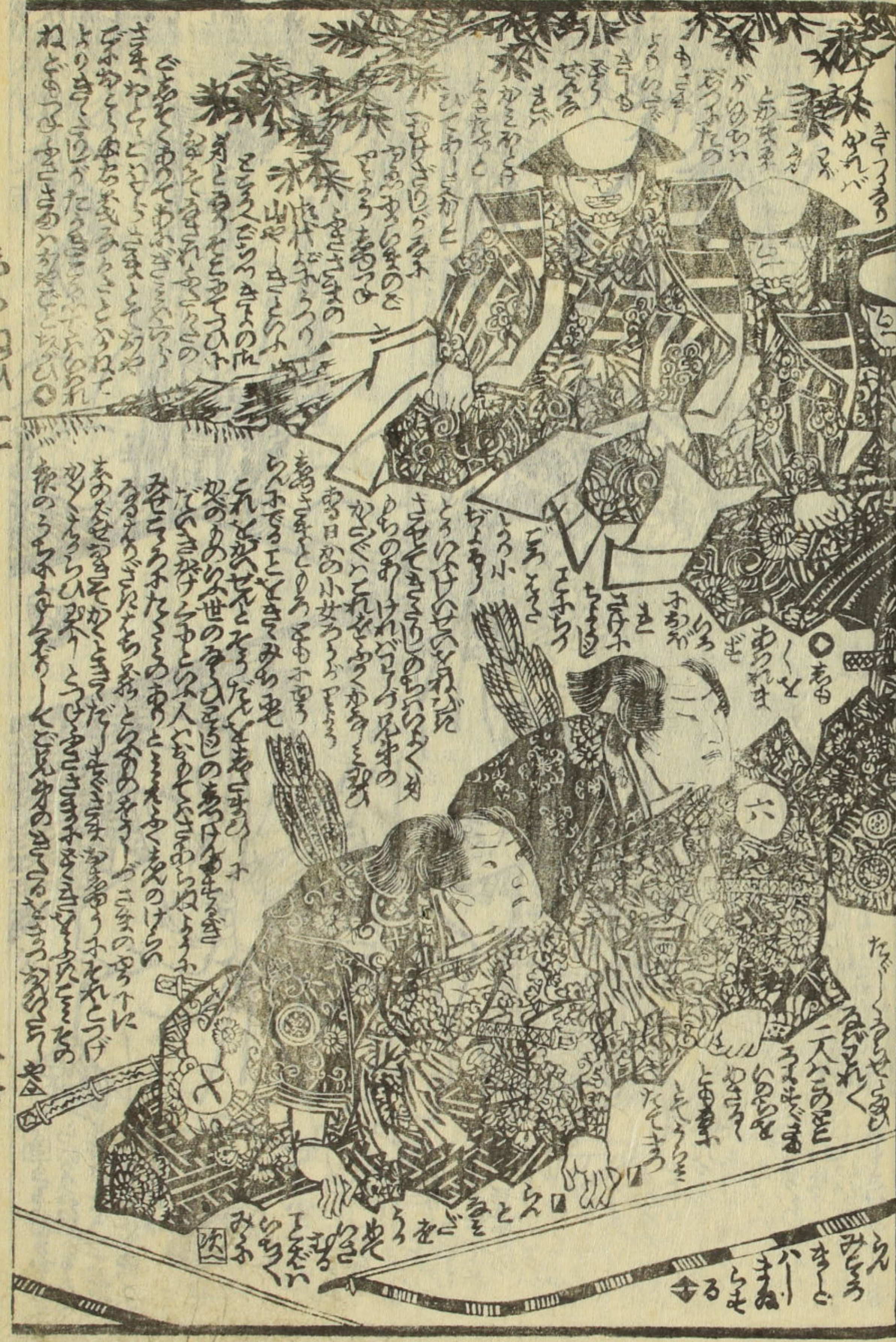
Vertical Japanese text columns located to the right of the bottom illustration on the left page, continuing the narrative.



Vertical Japanese text columns located to the right of the top illustration on the right page, providing a narrative or dialogue.



Vertical Japanese text columns located to the right of the bottom illustration on the right page, continuing the narrative.



三つ目入上

11



九つ目入上

12









志るぬひも結のゑり

折下亭種貞作  
香紫楼老國画

右冊子の美しき見物様方殊々外神意時以て通し編方清浄無染の間  
當春の七編より千三編迄をわき出板のし様は是より年々七編づつ  
毎三編づつわき出板のし様は是より年々七編づつわき出板のし様は  
わき出板のし様は是より年々七編づつわき出板のし様は是より年々七編づつ  
わき出板のし様は是より年々七編づつわき出板のし様は是より年々七編づつ  
わき出板のし様は是より年々七編づつわき出板のし様は是より年々七編づつ

新曲富士太鼓

同作  
同画

當三平出板

地本錦画書林通油町 藤岡屋慶治郎板

種員作國貞画



○春らんぬ  
十八んちの十元  
かろしき  
とと梨平

秋作が飛騨へ  
遙小後の巻の  
趣向

わりの



白

十二編上

弁是西の國





近松門左衛門が生涯不數種著一たる浄瑠理の中抜群る新奇の  
 一種曾我會枕香山と題号へ建久四年五月廿八日の明七と初段と  
 鏝倉の柳營も政子御前が御持の獲物を御覽あるといふの  
 序序祐成と時致が然歎工藤の狩家へ忍びて本望と連なる場が夜  
 終へて大切なり十二段と十二時の昼夜の間は仕組入寅の上刻  
 發端とあし丑の下刻ふ全く終趣向なるが一部の工夫加之果林  
 子別号が筆頭よりこれに數遍の繰返し讀み倦るる例の妙作  
 彼兄弟が報讎言の十八年ものあつたはつた件院本を假  
 借くと積年腰匠く當歳漸此冊子の十編より十五篇  
 ころりたるやと昼夜のとき綴か一巻中の文をりて時刻を

つひは人十一



藤岡屋製

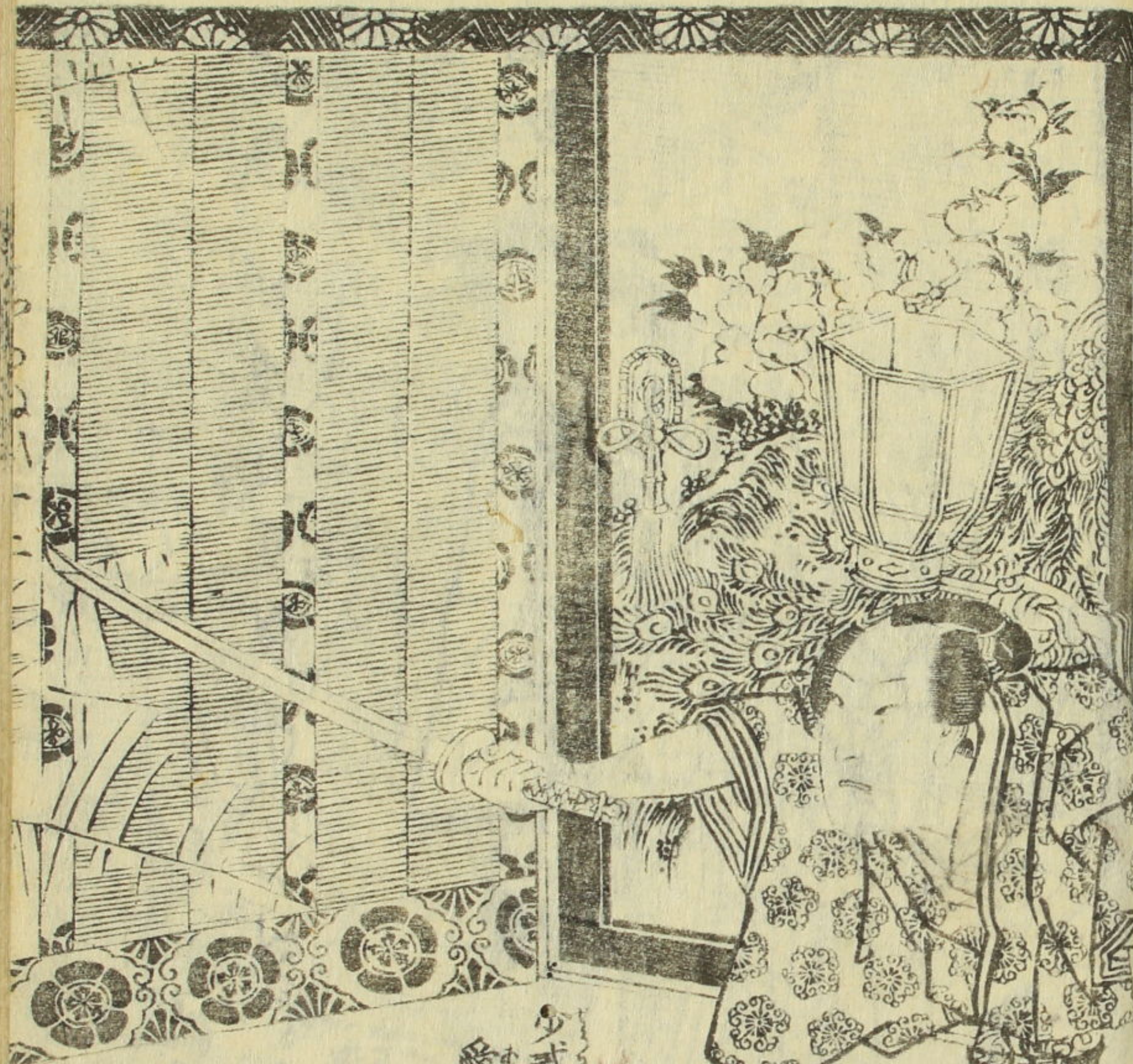
物のな

種貞化 第十ニ編

國貞

上冊

画



少貳經房の  
愛妾  
小女郎  
実の鏗蟠の  
妖怪

曲五團圓

大宰の  
近臣  
三原要人



大宰  
武房の  
後室  
香壽院

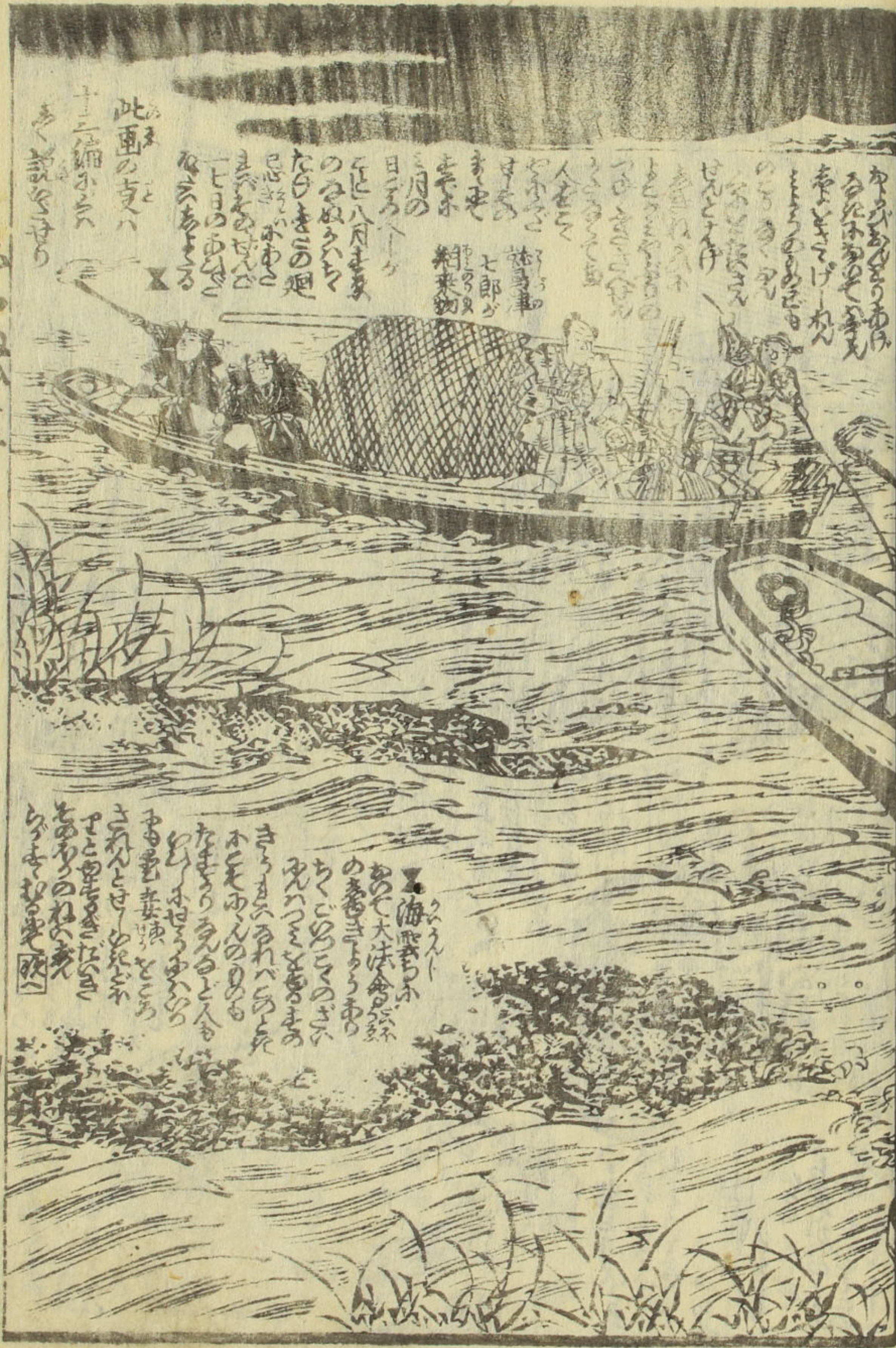


初意ありしに拙筆に説くぬまは十四編の舒詞なり  
 微細記に今童達の感讀くまぬ一助とをぞぞとされど  
 此序を誌よかふびく再度ありハ八編の鷺津六郎七郎が名  
 残の爲に老母が許へ立寄條ハ十郎五郎が裾野の狩場へ發行  
 とて中村を出る更を引用し不啻暗合されハ富岳のゆる  
 雪の色白縫の佳評もまゝ弥高く江湖上もきこえ曾我殿原  
 が小袖の模様衛や蝶もひさしきりて翼が生く飛ぶや  
 四方に售を混空に度幾而已

嘉永壬子應鍾結稿  
 同 癸丑上春發販

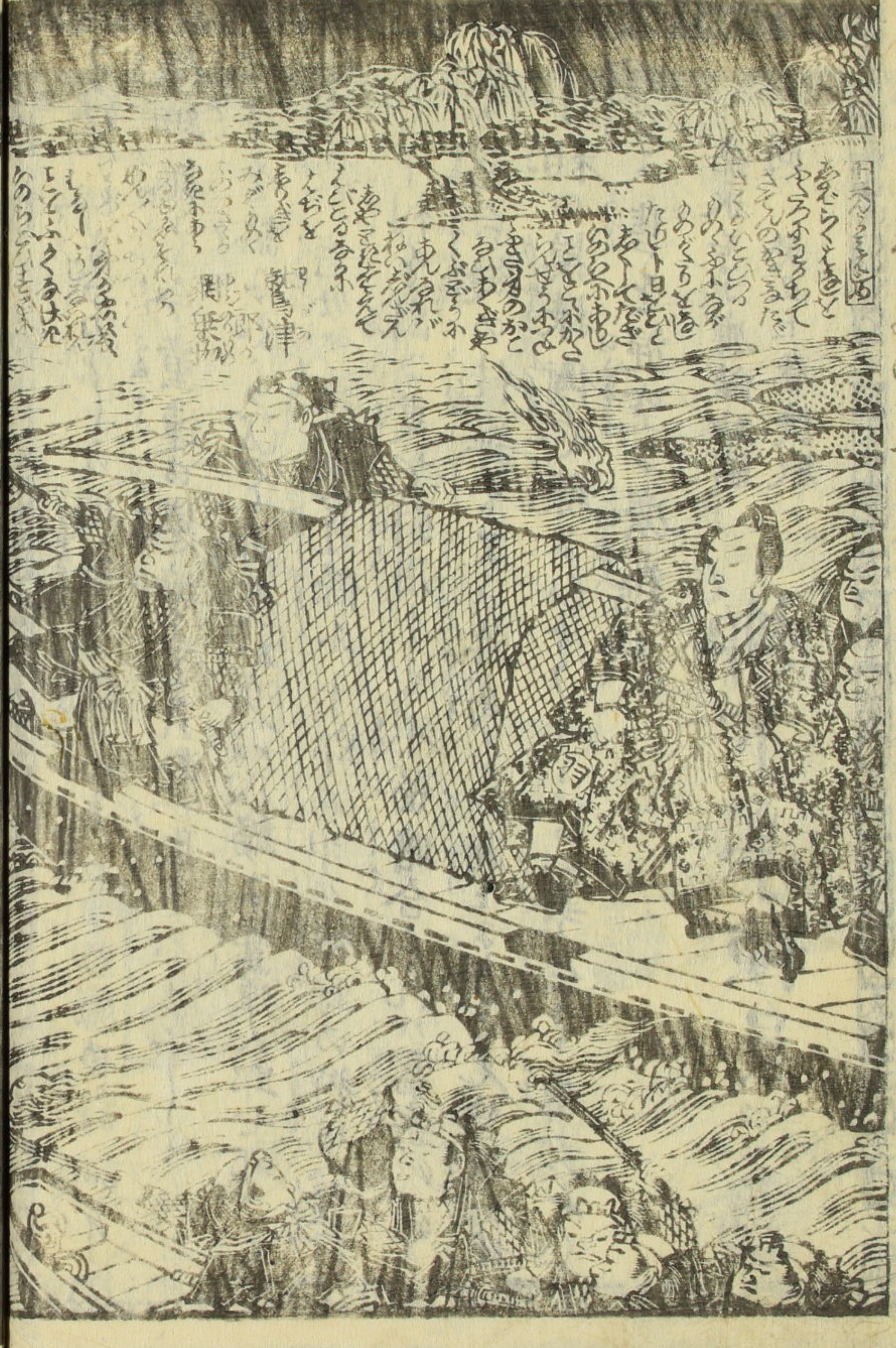
柳下亭種員記





此圖の支八  
十二は備小八  
あつて大は金の糸  
の巻ききりあひの  
ちくこのころのま  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ

あつて大は金の糸  
の巻ききりあひの  
ちくこのころのま  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ



あつて大は金の糸  
の巻ききりあひの  
ちくこのころのま  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ

あつて大は金の糸  
の巻ききりあひの  
ちくこのころのま  
あつてとまきま  
まうまふれはあ  
ふれあひのり  
たまきりあひ  
わいれあひ



おちい十二



おちい十二



二の巻の終り

二



二の巻の終り



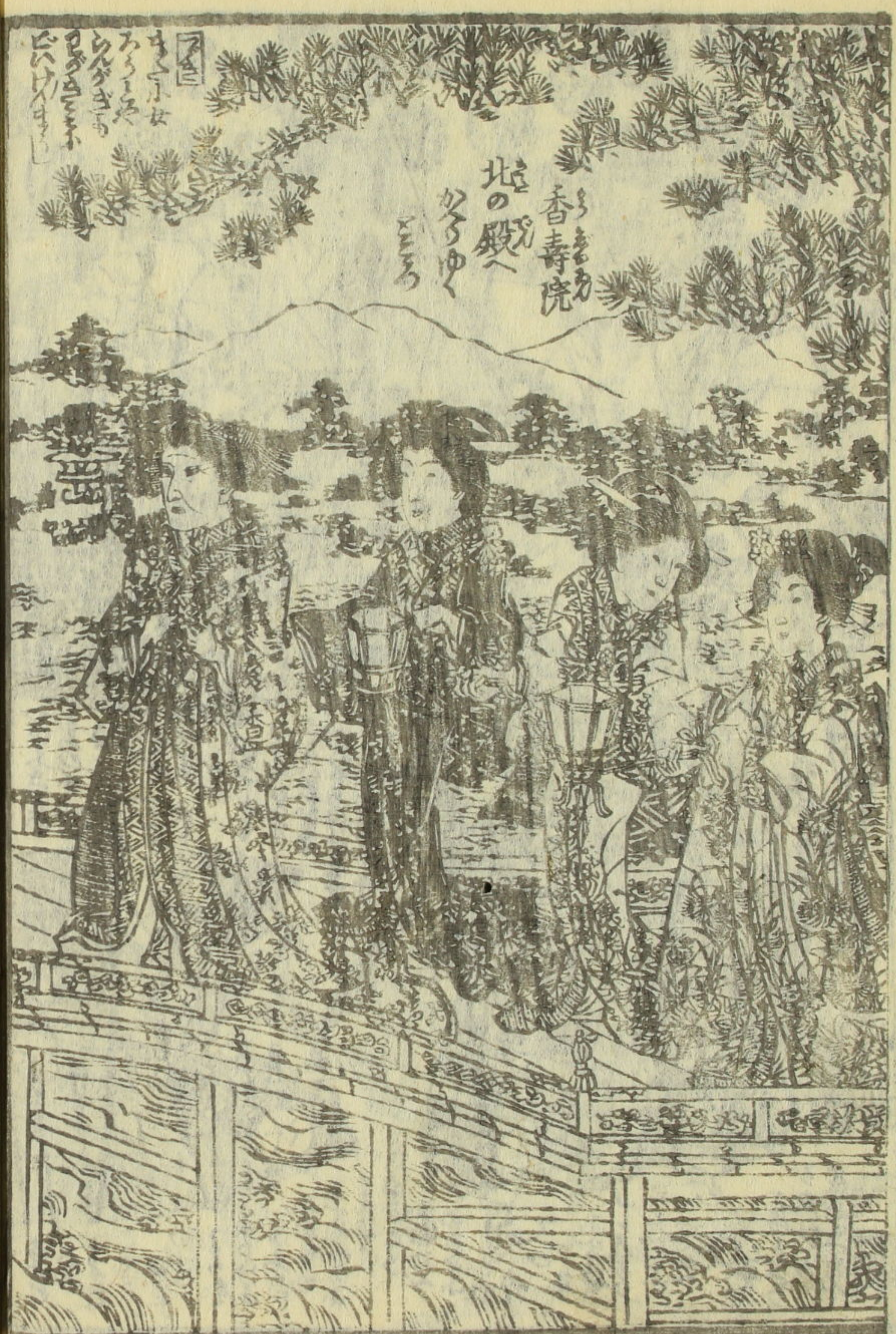






あんかららそありあつせん  
 シテノ花あひのみつひみちろ  
 まま自ちあひのめをうと  
 たかぬらとまふあつてあつて  
 三つあつてみちをみちを  
 りてこつてかへ入のそま  
 とことなふはさひいひらあえ  
 あつてのめあつてとまふ  
 さやさやみちをみちを  
 みちをみちをみちを  
 かかふみちをみちを  
 のりみちをみちを  
 たぬこつてあつて  
 せふよりこつてあつて  
 七つあつてあつて  
 めんあつてあつて  
 あつてあつて  
 あつてあつて  
 あつてあつて  
 あつてあつて

あつてあつて



香壽院  
 北の殿へ  
 少るゆ  
 三つ

あつてあつて  
 あつてあつて  
 あつてあつて  
 あつてあつて



地本錦繪類書林通油所 松林堂 藤岡屋徳次郎梓

# 秘方神應湯

一包 銀一匁五分

秘傳 婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり  
婦人一切の血証に用て妙なり

禁 王壺生肌膏 一月 三十六孔

金 奇功膏 一月 廿四孔

本 錦繪類書林通油所

製藥所 新 吉 原 玉 柳 下 亭 樓  
取次所 真乳山東石坂下



日本天下の  
名山大谷の  
みらるる  
三の巻につく

三の巻につく  
みらるる  
三の巻につく  
みらるる  
三の巻につく  
みらるる  
三の巻につく  
みらるる

種員作國貞画

種  
員  
作

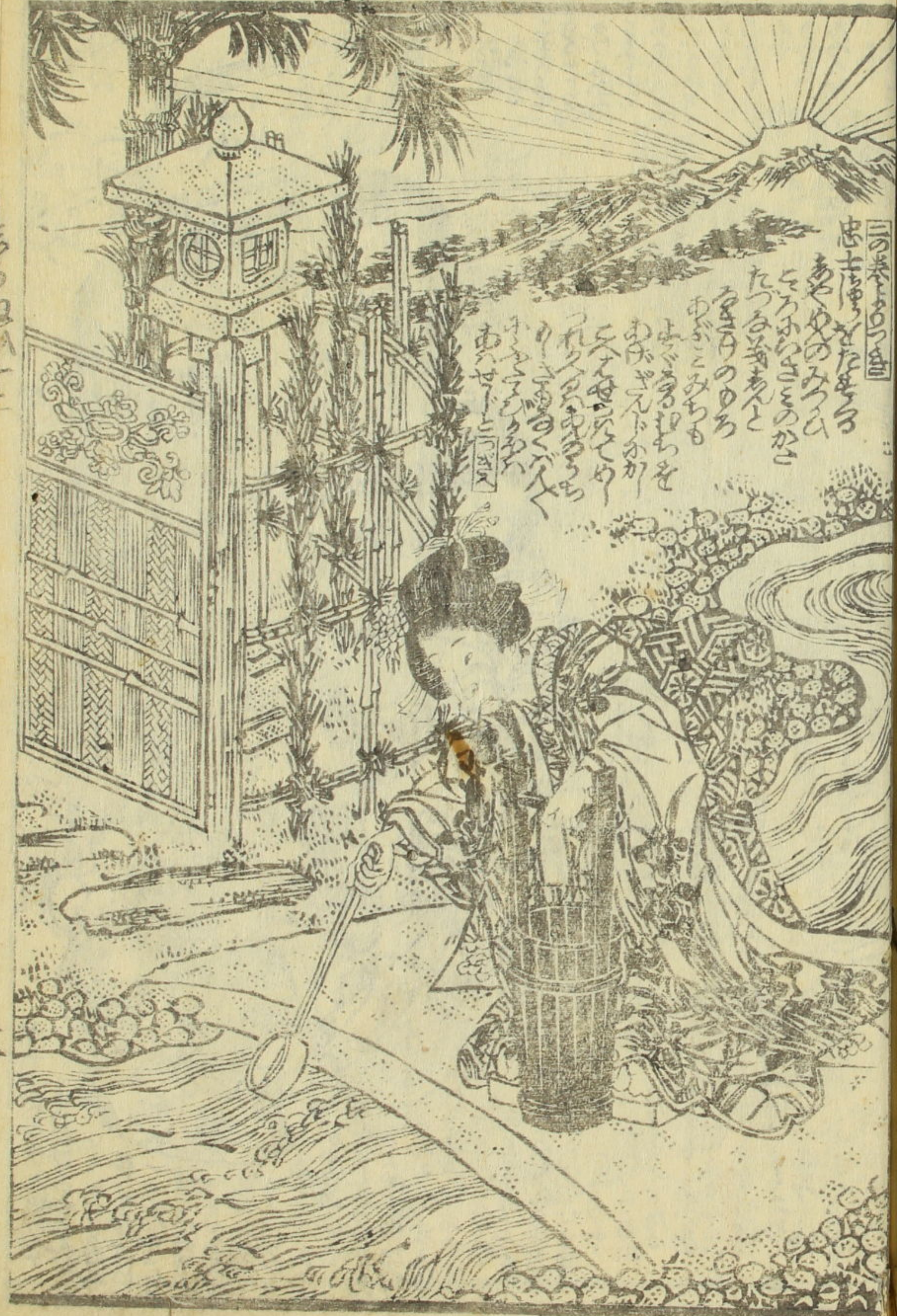
國  
貞  
車

譚  
繼



下編二十





三の巻のしるし  
 由緒しつたなまの  
 ありやのみらひ  
 こころのまのこ  
 たつるまゝと  
 るまののち  
 むらこみちも  
 よきまのちを  
 わかやうたか  
 こころのまのち  
 りつるまゝと  
 るまののち  
 むらこみちも

榎葉樓園自画

白縫譚笈本二編

柳下亭種員作  
 下冊



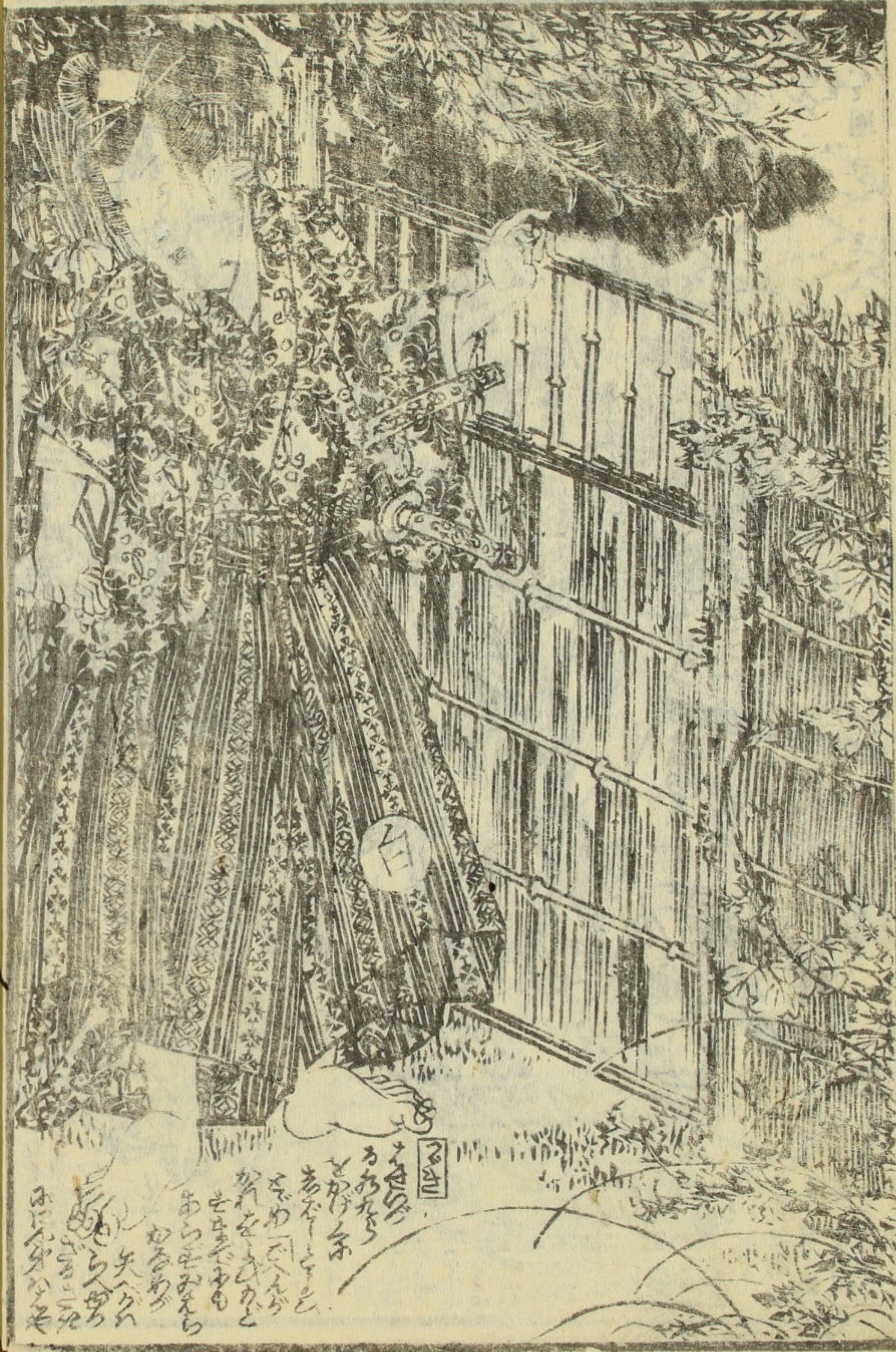






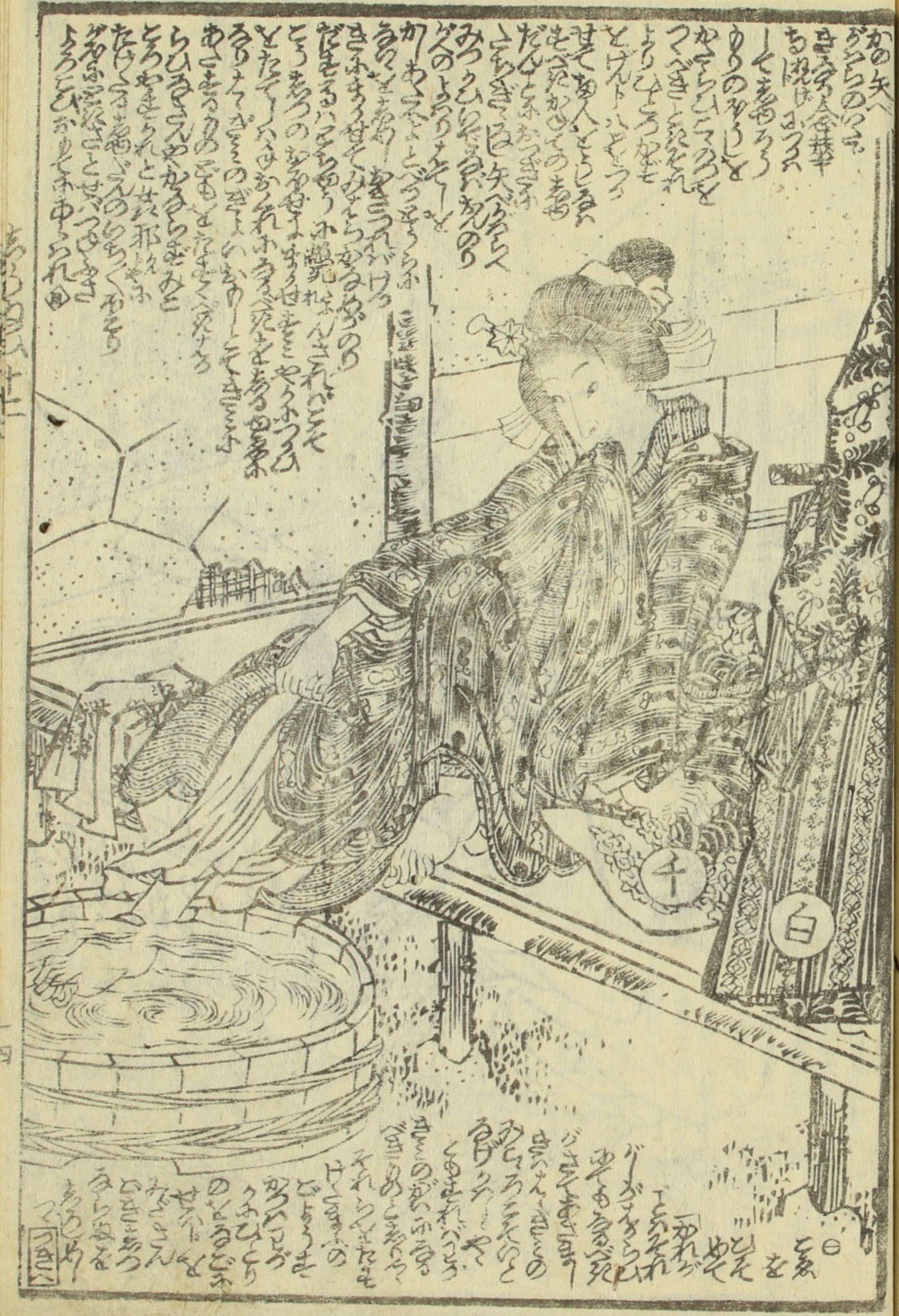
あつたこのまは  
市のあひだの  
ゆきあふま  
のあつたこのま  
のあつたこのま  
ありてけ

あつたこのまは  
市のあひだの  
ゆきあふま  
のあつたこのま  
のあつたこのま  
ありてけ



あつたこのまは  
市のあひだの  
ゆきあふま  
のあつたこのま  
のあつたこのま  
ありてけ

あつたこのまは  
市のあひだの  
ゆきあふま  
のあつたこのま  
のあつたこのま  
ありてけ



かゝるの  
 ちんねん  
 いとよ  
 おもひ  
 ながし  
 けり  
 こゝろ  
 ざんげ  
 せむし  
 かねて  
 かくれ  
 ぬかし  
 こゝろ  
 らいん  
 なに  
 と  
 あり  
 けり  
 かくれ  
 ぬかし  
 こゝろ  
 らいん  
 なに  
 と  
 あり  
 けり

あはれ  
 こゝろ  
 らいん  
 なに  
 と  
 あり  
 けり



かゝるの  
 ちんねん  
 いとよ  
 おもひ  
 ながし  
 けり  
 こゝろ  
 ざんげ  
 せむし  
 かねて  
 かくれ  
 ぬかし  
 こゝろ  
 らいん  
 なに  
 と  
 あり  
 けり

あはれ  
 こゝろ  
 らいん  
 なに  
 と  
 あり  
 けり







竹の葉は  
 さびしき  
 秋の風を  
 しのぐ  
 松の葉は  
 さびしき  
 冬の日を  
 しのぐ  
 梅の花は  
 さびしき  
 春の空を  
 しのぐ  
 桜の花は  
 さびしき  
 夏の日を  
 しのぐ

さびしき  
 秋の風を  
 しのぐ  
 さびしき  
 冬の日を  
 しのぐ

さびしき  
 春の空を  
 しのぐ  
 さびしき  
 夏の日を  
 しのぐ



さびしき  
 秋の風を  
 しのぐ

さびしき  
 冬の日を  
 しのぐ

さびしき  
 春の空を  
 しのぐ

さびしき  
 夏の日を  
 しのぐ



かねてより  
 思ひ入り  
 ぬべき人  
 ありけり  
 かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり  
 かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり

かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり  
 かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり



かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり  
 かくれん  
 名を  
 かくるも  
 矢張り  
 ありけり







地本錦画類問屋 通油町松林堂藤岡屋慶治郎板

七草四郎  
若菜嬢子

白縫譚

柳下亭種員作  
壽齋國貞画

當及春從十篇十六篇迄無相違出板

十一編ハ子春出板十編のよき茶店の叟唯作が往洋の物をさし鷲津頼母が智計の政談且鳥山秋作と若那姫が再會の談端ハ秋作の頼念法師が邪曲の爲業拾華寺の鐘樓堂不善惡の兄弟が争ひ十三編ハ秋作と若那姫が出會不至乳母秋篠が冥照忠の難を救ひ錦ヶ嶺の蛭蟻姫の境を助の物語十四編ハ編より 御漆をさしたる鷲津兄弟が存亡矢部川原の刑罪場不彼兩人を救ふ鳥山照忠怪力とあらう若那姫奇術をよとと純らと總て此一回の文中烈きことゝ綴るる小最勇し更條下毛父ゆゑ十五編も溢つべし十六編ハ毛刺九左門が太宰家入の事其他編をくみて詠いのまゝおのりはる詳備を希よ

作者 種員 伏京

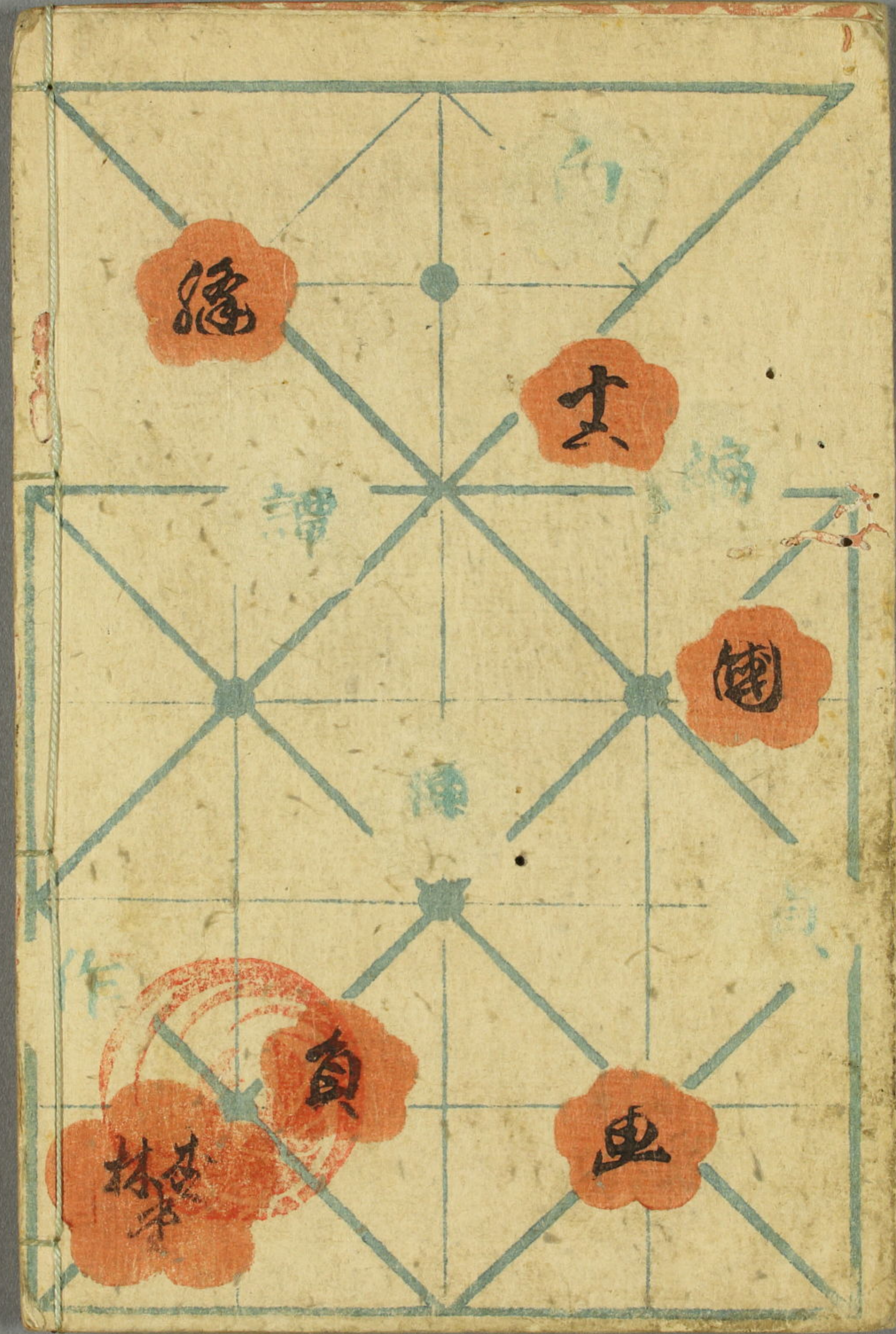


秋篠が亡霊

浄書の  
金川

種員作國貞画





乾

坤

巽

林氏印

兌